

技術士二次試験 受験体験記
～公務員×育児×独学の孤独な挑戦～

1.はじめに

tack と申します。令和 6 年度技術士二次試験（建設部門、鋼構造物及びコンクリート）に合格しております。この令和 6 年度試験は私にとって初受験でして、幸いにも一発で合格することができました。

これから技術士を目指す受験生の皆様に、少しでもお役に立てれば…と思い、20 頁超の非常に迷惑な大ボリュームで本稿を執筆させていただきました。今後の試験制度の変更等により、本稿の内容・情報は化石化してしまうかも知れませんが、あくまで「令和 7 年 4 月現在」の体験談としてご覧いただけると幸いです。

また、受験した令和 6 年度試験の成績を開示請求した結果も、以下に添付します。この内容も踏まえて本稿をお読みになると、『こういう考えで試験に取り組んだら、これくらいの点数をとるのか』という参考程度にはなるかと思います。

記

受験番号 XXXXXXXXXX

技術部門 建設部門

選択科目 鋼構造物及びコンクリート

○ 技術士第二次試験 筆記試験の成績及び結果

科目	必須科目	選択科目	
	I (40 点満点)	II (30 点満点)	III (30 点満点)
成績	27.50 (A)	19.00 (A)	21.50 (A)
		40.50 (A)	
結果	合格		

A : 60%以上 B : 60%未満 40%以上 C : 40%未満

注) 必須科目及び選択科目 (II と III の合計得点) の各々の得点が 60%以上で合格です。

○ 技術士第二次試験 口頭試験の成績及び結果

試問事項	技術士としての実務能力		技術士としての適格性	
	①コミュニケーション、リーダーシップ (30 点満点)	②評価、マネジメント (30 点満点)	③技術者倫理 (20 点満点)	④継続研さん (20 点満点)
成績	23.00	23.00	16.67	15.67
結果	合格			

注) ①、②、③、④の得点がそれぞれ 60%以上で合格です。

以上

2.私の個人属性

まずいろいろと書き始める前に、私の個人属性は他の受験生と異なる特徴があると思いますので、前提整理の意味も込めて、令和6年度試験受験時の私の個人属性を、ひとつとおりに述べさせていただきます。

私は関東在住の地方公務員（職種は行政職、専門は土木）です。受験当時の年齢は40歳で、大きな特徴は2歳の娘のパパとして育児に注力していたことです。

私の毎日は、16:15に定時退勤し、17:00過ぎに帰宅して晩御飯を作り、18:00前に保育園で娘のお迎えして再帰宅、娘をお風呂に入れ、一緒に晩御飯を食べ、ちょっと遊んで、寝かしつけて、やっとフリーになるのが21:00頃。翌朝は6:00から洗濯物整理・お着がえ・朝食対応・登園準備 etc をこなし、7:30～勤務という状況でした。2歳は所謂イヤイヤ期なので、これらが全てスムーズに進行する保証ありません。妻は中学校で英語の教員として働いており、ご存じの通り教師は多忙な職業なので、特に夜の家事育児は私が主を担っています。育児の手を祖父母に頼る環境下になく、基本的には夫婦2人のみで育児を行っています。

このため、勉強用に確保できる時間は隙間時間をかき集めても約1.5h/日が限界で、時間的制約が極めて強い生活環境下だったということを前提に申し上げます。また、民間塾へのスクーリング等、物理的に体を取られる取組は導入できないので、勉強方法は自宅学習による独学が基本形となっていました。

さらに、ゼネコンや建設コンサルタント等と比べると、公務員は業務における資格の必要性がそこまで高くないことは周知のとおりですが、私の所属も例外ではなく、私以外に周囲で技術士を目指す人など皆無でした。そのため、身近に受験仲間などは誰一人もおらず、終始孤独な挑戦であったことも、書き加えておきます。

3.受験動機

(1)育児事情と周囲への見返し

前述の通り、私は男性の中でもかなり育児参加に注力している部類で、職場内でも少し浮いた存在です。仕事は一応フルタイムですが、残業は一切できず、皆は口には出ませんが、本人としては“配慮されている”感をひしひしと受けます。仕事をバリバリする同僚に気おくれする機会も多く、かといって家庭を犠牲にすることは当然できませんから、葛藤する機会が日に日に増していきました。そのような中、『仕事の“量”で勝負できないなら、“質”で勝負してやろうじゃないか！』と、見返しに等しい精神が芽生えるようになってきました。その手法に思いついたのが、自宅でも取組が可能な資格の取得、しいては技術士二次試験だったということです。

(2)技術系公務員のスペシャリティの不足

役所勤めの技術系公務員は、道路、河川、上下水道、都市計画、時には技術面からかけ離れた事務的な部門など、多種多様な部門で勤務を求められる場合があります。格好よく言えばゼネラリストですが、とどのつまりは何でも屋です。また、設計ではコンサルに、工事ではゼネコンに発注する立場ですから、技術屋というより調整屋の側面が強くなりがちです。『技術系公務員はそういうものだ』と言う人もいますが、以前から自身のスペシャリティの無さには、少しだけコンプレックスがありました。前述の通り妻は教師なので、もし娘が今後成長して『ママは仕事で何しているの？』と聞かれても、妻はパッと答えられます。しかし、『…パパは？』と聞かれた場合、おそらく私は言葉を選んでしまう…と考えるようになりました。教師ほど分かりやすくなくてもいいのですが、せめて自分のくらい自信をもって説明できるようにしたい、と思うようになったのも、受験のきっかけです。

(3)コンクリート診断士からのステップアップ

実は技術士二次試験に先立ち、前述(1)(2)と同様の理由で、前年の令和5年度にはコンクリート診断士の資格試験に一発合格していました。その中で『育児があっても資格取得はできる！』という手応えを得ていたため、コンクリート診断士の合格発表に引き続いて、そのまま技術士二次試験にステップアップしたという経緯もあります。また、コンクリート診断士で得た知識は、建設部門・鋼構造及びコンクリートの科目ではコンクリートの分野に流用できるものが多かったので、そこまで抵抗感もなく、割とすんなりと歩を進められた、という側面もあります。

4.総勉強時間

キチンと計測したわけではありませんが、総勉強時間はだいたい以下のような感じでした。

- ・出願対策 ：約 50 時間（約 1 ヶ月間）
- ・筆記試験対策 ：約 450 時間（約 10 ヶ月間）
- ・口頭試験対策 ：約 100 時間（約 2 ヶ月間）

前述の通り、私は 1 日に 1.5h 程度しか勉強時間を確保できない状況でしたが、毎日決まった時刻に勉強を行い、ルーティン化して勉強量を積み重ねる設定をしました。具体的には、妻と娘がまだ寝静まっている朝方（30~60 分）＋通勤電車（25 分×2）＝約 1.5h/日という感じです。上記の勉強量は、約 1.5h/日×実際の実験期間（月数）の概略算定による結果です。

勉強計画の立案では、ネット上で複数の受験体験談を調べたところ『筆記試験には 400~500h の勉強が必要』との見解が多かったので、まずは筆記試験に向けて 400~500h の勉強量を目標値としました。そして、 $400\sim 500h \div 1.5h/日 \approx 約 10 \text{ ヶ月}$ とし、7 月の筆記試験から逆算して前年 9 月から勉強を開始する計画を立てました。

さっきから口酸っぱく『1 日に 1.5h 程度しか勉強時間がない』と書いていますが、これは家族等から強い圧力を受けていたワケではありません。私はかねてから、家族や本来業務に迷惑をかけながら資格を取る行為に拒絶感が強かったので、フルタイム勤務も家事育児も規定ボリュームは絶対に落とさずに資格取得を目指す、というのが私のポリシーであり、これはなにより私自身が決めたことでした。

そのため、試験の直前であっても、平日は家事育児を含めたタイムスケジュールを遵守していました。休日は、適宜夫婦で互いに個人行動の時間を設けていましたが、家族 3 人で遊びに出かけたりスーパーで日常の買い物をしたりを優先していたので、やはり勉強量は 1.5~2h/日程度で、あまり休日に勉強量を稼いではいませんでした。

振り返ると、どうしても一発合格で仕留めたい思いが強かったので、結果論ですがややオーバーキル気味に準備した感は否めません。合理性を追求して 6 割スレスレの合格点を狙っていれば、実は上記の半分の勉強量で済んでいた可能性もあります。

5.試験対策の基本的方針

(1)【筆記】A判定論文を多く集めて、その共通項から論述ネタを作成

筆記試験では、おそらく「キーワード学習法」などがオーソドックスな勉強法だと思いますが、日常的に時間制約が強い私の場合、もっと効率的・効果的な方法を追求する必要性がありました。そこで、他の受験生のA判定論文を可能な限り多く集めて共通項を抽出し、その共通項を軸に論文ネタを作る、という方針に行き着きました。

具体的には、sukiyaki塾のフリーDLパスで過去のA判定論文を片っ端から集め、まずは下表のように骨子状にバラし直しました。本来は①骨子作成→②論文を書く、の順序ですが、既に組みあがっている論文に対して②→①と逆の作業を行いました。

◎出題 R●年Iー●	設問(1) ★:最重要課題	設問(2)	設問(3)	設問(4)
論文①	課題①:「タイトル」★ 観点「○○○」 ・問題提起:**** →原因分析:**** ⇒課題抽出:****	解決策①「タイトル」 ✓ **** **** ✓ **** ****	新たなリスク ✓ **** ****	技術者倫理 ✓ **** ****
	課題②:「タイトル」 観点「○○○」 ・問題提起:**** →原因分析:**** ⇒課題抽出:****	解決策②「タイトル」 ✓ **** **** ✓ **** ****	↓ その対応策 ✓ **** ****	環境の保全 ✓ **** ****
	課題③:「タイトル」 観点「○○○」 ・問題提起:**** →原因分析:**** ⇒課題抽出:****	✓ **** ****		
論文②	課題①:「タイトル」 観点「○○○」 ・問題提起:**** →原因分析:**** ⇒課題抽出:****	解決策①「タイトル」 ✓ **** **** ✓ **** ****	新たなリスク① ✓ **** **** ↓ その対応策① ✓ **** ****	技術者倫理 ✓ **** ****
	課題②:「タイトル」 観点「○○○」 ・問題提起:**** →原因分析:**** ⇒課題抽出:****	解決策②「タイトル」 ✓ **** **** ✓ **** ****	新たなリスク② ✓ **** **** ↓ その対応策② ✓ **** ****	環境の保全 ✓ **** ****
	課題③:「タイトル」★ 観点「○○○」 ・問題提起:**** →原因分析:**** ⇒課題抽出:****	解決策③「タイトル」 ✓ **** **** ✓ **** ****		
論文③	...	...	...	...

ここで、表の(1)だけ、(2)だけ、(3)だけ…と、縦方向の要素を眺めて比較すると、複数の受験生達が、似たような課題と観点・似たような解決策・似たようなリスクを述べていることに気づきやすくなります。この、複数の A 判定論文に共通で述べられているネタのみを丁寧に抽出して集積し、そして再び骨子状に再構築を行いました。

例えば、R 5 年 I - 2 や R 2 年 I - 2 のように、出題が「インフラメンテナンス」テーマで、共通ネタを抽出・整理し、“平均化”すると、以下のイメージになります。

課題 (設問(1))	・インフラストックの適正化（集約・再編） ・維持管理業務の効率化・高度化（DX推進） ・地方自治体の技術系職員不足への対応 等
解決策 (設問(2))	・地域インフラ群再生戦略マネジメント（群マネ）の推進 ・インフラメンテナンス 2.0 の推進 等
新たなリスク →対応策 (設問(3))	・（※(2)で群マネを述べた場合）自治体間に業務量の偏りが発生 →包括的民間委託の適用を推進 ・（※(2)でインフラメンテナンス 2.0 を述べた場合）情報漏洩等の情報セキュリティリスクが上昇 →データのクラウド化、情報倫理教育の徹底 等

※イメージなので簡略化しているが、実際はもっと課題や解決策の数が多く、各項目に論文記載例も用意している

過去問では、「インフラメンテナンス」以外にも「防災・減災」「生産性向上」「環境」等、出題テーマがある程度まとまっていますので、テーマ別に、1つ1つの A 判定論文を骨子状に分解→共通ネタの抽出…の作業を繰り返し行い、自分流の“論文データベース”を形成していきます。そして、テーマごとに改めて骨子状に再構築し、複数の A 判定論文を平均化したような上表の代物が、私の“論文ネタ帳”となります。白書等を全く読まなくても、実はこの取組だけでかなりの論述ネタを集められます。

勿論、いきなりこんな作業から始めると知らない単語だらけでチンプンカンプンな状態ですが、その段階で初めて、各キーワードをネットで調べて理解を深めました。そして白書等でバックチェックを行い、ネタ帳のブラッシュアップを重ねました。

このように、『A 判定を勝ち取るためのネタは、A 判定論文の中から拝借する』『複数の A 判定論文にあるネタだけで論文を作ったら、当然 A 判定になる（はず）』という精神で対策しました。私の勉強資料の軸は、各受験生の A 判定論文でした。

また、数多くの A 判定論文のサンプルに触れると、A 判定に必要な水準を感覚的につかめるというメリットもあります。非常に感じが悪くて恐縮ですが、A 判定論文の中には『これで A! ?』と思えるサンプルがたまにあります。しかし、壮大で美しい論文でなくとも、現実として A 判定が取れているという事実は知っておくべきです。もし本番で想定外の出題に出くわしても、『ネタは薄くなっていいから、せめてアレくらいの水準は目指そう…』と、現地で踏ん張りが効くこともあると思いますから、A 判定論文の特に下方の水準を知っておくことは、実は結構大事です。

必須科目Ⅰ・選択科目Ⅱ－２・Ⅲは、基本的に前述の方法で準備していきました。選択問題Ⅱ－２は、実務経験の有無で論文の出来が変わる運ゲー要素が強いですが、Ⅱ－２は業務手順（マネジメント）や関係者調整（リーダーシップ）をコンピテンシーに沿う形でシッカリ論じれば、教科書レベルの知識しかなくとも必要最低限の点数は稼げると思います。私自身、本番では道路橋の橋脚の耐震補強設計をテーマにして書きましたが、そんな業務まったく携わったことはありません。しかし、これも他のＡ判定論文のサンプルの中から論述ネタを拝借した結果なので、やはりⅡ－２も前述と同じ方法で、ある程度は対応できると感じました。

一方、選択科目Ⅱ－１だけは違う方法で対策しました。しかし方法はシンプルで、Ⅱ－１は技術士会ＨＰに掲載されている過去問を全部やることです。下図の要領で、旧試験制度のⅡ－１的な出題も含めた全過去問を整理して、各回答を準備しました。約４０キーワードを用意しましたが、この４０は目標値ではなくて、全過去問を拾った結果に過ぎません。そして全体を眺めて、『自身の科目（≡コンクリート）の分野を網羅しきれているか？』という視点でも漏れが無いよう、キーワード整理しました。実際の試験でも出題履歴が多いキーワードが出題されたため、「過去問すべてやる」という方針は実に泥臭くて単純ですが、非常に有効だったと思います。

カテゴリー		キーワード	出題履歴				
①設計	(1)材料	プレストレストコンクリート	H29 (2017)	H27 (2015)	H21 (2009)		
		混和材（高炉セメント・フライアッシュ）	R 4 (2022)	H24 (2012)	H23 (2011)		
		環境負荷低減材料	H30 (2018)	H22 (2010)	H21 (2009)		
		高強度鉄筋・高強度コンクリート	R 3 (2021)	H23 (2011)			
		繊維補強コンクリート	H29 (2017)	H24 (2012)			
		化学系混和材	R 1 (2019)				
		水中不分散性コンクリート	H28 (2016)				
		JIS新規格コンクリート	R 2 (2020)				
		高耐久コンクリート	H23 (2011)				
		高流動コンクリート	H23 (2011)				
		充填コンクリート	H21 (2009)				
	(2)設計手法	耐震設計	H28 (2016)	H23 (2011)	H21 (2009)		
		複合構造	R 1 (2019)	H26 (2014)			
		破壊形態	H28 (2016)	H25 (2013)			
		性能照査型設計	H29 (2017)	H24 (2012)			
		構造物の合理化・省力化	H24 (2012)				
		耐火設計	H22 (2010)				
		FEM解析	H21 (2009)				
②施工	(1)躯体築造	機械式継手	R 2 (2020)	H30 (2018)	H21 (2009)		
		寒中コンクリート・曇中コンクリート	R 5 (2023)	R 1 (2019)	H26 (2014)		
		充填不良	R 4 (2022)	H27 (2015)			
		プレキャスト工法	R 5 (2023)	H23 (2011)			
		生コンの品質管理	H22 (2010)				
	(2)初期変状	骨材の品質管理	H24 (2012)				
		初期ひび割れ（乾燥収縮・温度）	H30 (2018)	H27 (2015)	H26 (2014)	H24 (2012)	H21 (2009)
		ひずみ（乾燥収縮・自己収縮）	H22 (2010)				
		施工に起因する初期欠陥	H22 (2010)				
		非破壊検査手法	R 3 (2021)	H30 (2018)	H23 (2011)		
③維持管理	(1)点検・調査・管理	予防保全型維持管理	H23 (2011)				
		目視点検	H22 (2010)				
		ASR	R 2 (2020)	H28 (2016)	H25 (2013)	H24 (2012)	H23 (2011)
	(2)劣化・損傷	中性化	R 2 (2020)	H28 (2016)	H24 (2012)	H23 (2011)	
		塩害	R 1 (2019)	H25 (2013)	H24 (2012)	H23 (2011)	
		凍害	R 2 (2020)	H24 (2012)	H23 (2011)		
		マクロセル腐食	H26 (2014)				
		火害	H22 (2010)				
		複合劣化	H21 (2009)				
		電気化学的補修工法	H27 (2015)				
	(3)補修・補強	劣化部の補修工法	H24 (2012)				
		耐震補強工法	H24 (2012)				

※ 「出題履歴」の黄色は、現行の試験制度になってからの直近の出題履歴を強調

※ 「キーワード」の赤字は、令和６年度試験のⅡ－１で実際に出題された内容

(2) 【出願+口頭】程々に技術的&一般人が絡む&規模の割に大変だった業務を選定

口頭試験では、720字の業務詳細例のネタで、意思疎通の工夫（≡コミュニケーション）も中庸案の提案（≡リーダーシップ）も、今後に生かせる反省点（≡評価）も資源配分を行った内容（≡マネジメント）も、ワンエピソードで全コンピテンシーをアピールできるようにする…というのがセオリーだと思います。

多くの受験生は、1～3月頃に出願書類を推敲して4月に出願し、かなりの時間が空いた12月頃、その出願書類の内容で口頭試験に挑む流れになります。しかし目先のハードルである筆記試験に意識が行き過ぎて、春先の出願では割とテキトーに書類を埋めてしまい、季節を開けた冬頃にブーメランとなって口頭試験で苦労する…というパターンの方も多いと思います。そうは言いつつ、春先の出願時点でそこまで先々のことまで気が回る受験生はなかなか少ないと思います。

そのような中、私なりに行き着いた考えが、**720字の業務詳細例は、①マニアックじゃない程度に技術的なエピソード、②できるだけ一般人が絡むエピソード、③規模の割に大変だったエピソード、を選定する**、ということでした。

「①マニアックじゃない程度に技術的なエピソード」とは、特殊な工法や材料等を適用した業務を選んでしまうと、720字に収まらないばかりか、口頭試験での説明やその準備に時間を食うからです。従来工法が主でもいいので技術の話はシンプルな方が良いと思います。また『〇〇協議会と調整した』『〇〇連絡会を開催した』等々、調整調整&調整みたいなソフト的なエピソードを選ぶと、調整屋でしかない公務員の悪い所が出てしまうので、程々に技術的なエピソードを選定します。

「②できるだけ一般人が絡むエピソード」とは、後の口頭試験で、評価項目であるリーダーシップやコミュニケーションを説明しやすくなるからです。模擬面接の際に他の受験生の様子を拝見していると、『関係者が内部の人間ばかりじゃないか？』

『関係者が全員エンジニアで協議が簡単そうじゃないか？』等々、利害関係者調整のアピールが弱いと指摘を受けている方が多くいました。施設利用者や近隣住民など、できるだけ一般人を絡ませると、利害関係者調整のアピールがしやすいと思います。

「③規模の割に大変だったエピソード」とは、あまり壮大なプロジェクトをネタに選んでしまうと、ロジック整理が収集つかなくなるからです。どのプロジェクトも、予算的な制約、工期的な制約、品質的な制約…様々な制約条件があると思いますが、巨大プロジェクトにもなると経営的・政治的に意思決定される状況もありえるので、協議や検討の積み重ねだけで整然と方針が決まったと説明しにくい場合があります。あくまで、自分自身の範疇で検討も判断もコントロールableだった、程々に小規模な事案を選定する方が、仕事で汗をかいた話も自分事として説明しやすくなります。

私の場合、「供用中の小規模橋梁の老朽化対策」をテーマにしました。技術面ではクレーン吊による上部工の架け替えだったので工法的には極めて単純な内容ですし、供用中なので一般人のユーザーもいます。小規模橋梁なので、政治的・経営的な要素はなく関係者調整のみで事業方針が決まっています。実はこのテーマは version2 で、本当は全然違うネタで 720 字の文章も完成していた version1 がありました。しかし、この version1 は〇〇工法と固有名詞が出る技術ネタで、且つ、一般人が登場しにくいネタだったため、説明のしにくさを感じて思い切って全部捨てました。業務のネタを丸ごと変えたことは勇気が要りましたが、今思えば、このテーマ変更によって最後の口頭試験の対策が進めやすくなったかな、と振り返っています。

最後の口頭試験の対策は、やはり想定問答の作成と複数回の模擬面接に尽きます。私の場合、想定問答は約 100 個を作り、模擬面接は 3 回実施しました。模擬面接は、1 回目は課題の洗い出し、2 回目は修正内容の確認、3 回目は完成系・総仕上げ…のイメージでした。結果論ですが、2 回目で終えてもよかったかな？とも思います。

筆記試験の合格発表後は、間髪入れず模擬面接を申し込み、なるべく早い段階で、同じ科目を保有している & 現行の試験制度を熟知している既技術者に、技術的事項もコンピテンシー事項もガッツリ絞られた方がよいと思います。一人で考え込まずに、他者の指摘は早い段階で受けておいて、軌道修正は迅速に行うことをお勧めします。

口頭試験の質疑内容には個人差はありますが、全受験生に統一的に言えることは、試問事項のコンピテンシーに関する質疑は、必ずひと通り行われるということです。「技術者倫理のことは聞かれたが、継続研さんのことは聞かれなかった」という人はまず存在しません。試験官側も、どんな受験生であっても評価対象である試問事項はひと通り質疑することが、ある程度義務化されているものと推測されます。

そのため、想定問答はただただ羅列的に用意するのではなく、下表は“1 軍”として優先的に回答精度を練り上げ、いつでも噛まずにスツと言えるように、鍛錬を重ねていくのが良いかと思います。そこから派生で枝葉を広げていき、二の矢で聞かれうる質疑を“2 軍”として用意する…という方針が現実的だと思います。

試問事項		質問内容の例
①	コミュニケーション	Q.コミュニケーションで工夫した事例は？
	リーダーシップ	Q.利害調整を行った事例・リーダーシップを発揮した事例は？
②	評価	Q.業務を振り返ってみての反省点は？
	マネジメント	Q.資源を配分した事例・マネジメントを行った事例は？
③	技術者倫理	Q.業務において倫理で気を付けていることは？ Q.利害調整を行った事例は？（倫理の観点で答える）
④	継続研さん	Q.今までの継続研さんの取り組み事例は？
		Q.今後の継続研さんの取り組み予定は？

口頭試験の準備を進めていくと『想定問答は何個ほど用意すべきか?』との話題を耳にすることがあり、人によっては『300,400 個を用意した!』と数を競う風潮すらあります。想定問答数は個々人の業務詳細例や経歴の中身次第ですし、出願の段階でツッコミどころが少ないシンプルな作り込みにしておけば、おのずと想定問答の数は減ると思います。想定問答を 300 個も 400 個も用意しているケースは、業務詳細例のネタ選びの段階から問題があるような気がします。

また、よく口頭試験は『一問一答で、端的に』とは言われますが、普通に考えて、人間同士のやり取りとして『趣味は何ですか?→読書です、以上。』みたいな淡泊な応答はあり得ないので、答える側の回答には程々にボリュームが必要だと思います。

『はい、私は〇〇と考えます。なぜなら××が△△だからです。例えば□□や▽▽が挙げられます。なので、申し上げた通り〇〇だと考えます』といったように PREP 法の形で回答するはずなので、1 分程度の喋りなら許容と捉えて想定問答を用意すると良いと思います。いたずらに一問一答形式にして想定問答の数だけ増える準備法は、結果的に暗記勝負に走ることになってしまうので、あまり良くないかと思います。

(勿論、実際の場合では“結果的に”一問一答で収まるシーンは往々にあり得ますが…)

(3)その他の全般的な事項

技術士二次試験の勉強方法は、『これをやっとけば大丈夫』という統一的な手法があるようで無いので、“勉強法の勉強”から始めることをお勧めします。市販の書籍や他の方の受験体験記等を参考にして、自分自身の能力・性格・生活環境等を勘案し、一番フィットする自分流の勉強法を確立させるとよいと思います。例えば私の場合、「キーワード学習」のようなことはしていませんし、「技術ノート」なる紙ベースの資料も一切作っていませんし、論文添削の依頼に関しては2回しか行っていません。かなりオーソドックスから程遠い勉強方法だったかも知れませんが、私なりに自信と納得感を持って適用した勉強法であり、必ずしも流布しているセオリーや民間塾へのスクリーニングが最適解だとは限らないと思います。

また、勉強においてはインプットとアウトプットのバランス、特にアウトプットの量が肝要だと思います。アウトプットとはつまり、筆記試験では論文の手書き練習、口頭試験では質疑応答の喋り練習、これらのトレーニングを重ねることを指します。試験で求められる大量の手書きや質疑応答は、日常生活ではまず縁のない非日常的な行動であり、且つ、それを本番一発&高パフォーマンスで発揮する必要があります。そういう意味では、もはや“スポーツ”に近いものがあると思います。いくら脳内に知識や理論があっても、手(筆記)や口(口頭)が連動しなければ成果ゼロなので、事前の疑似トレーニングと試験直前の体調管理は非常に大切だと思います。

6.勉強資料や取組等

(1)勉強計画・勉強方針の策定

- 購入書籍①：『独学・過去問で効率的に突破する! 最新版「技術士試験」勉強法』
(鳥居直也 著)
購入書籍②：『聴く! 技術士二次試験 一発合格のツボ』 (山崎恭司 著)
購入書籍③：『2023-24 年版 技術士第二次試験 建設部門 最新キーワード 100』
(西村隆司・日経コンストラクション 著)
✓ 長期戦となる勉強を入口から間違わぬよう、“勉強法の勉強”を目的に購入。

(2)出願の対策

- Apec-semi 出願セミナー動画+テキスト
✓ 1 月から出願の準備を始めたが、最新版 (R6 年度版) が未リリースだった。
出願は年度が古くても勘所はそんなに変化はないだろうと判断し、前年度版 (R5 年度版) を購入して対応。
- 職場内での文面添削
✓ 既技術士の上司 (別科目) + 先輩 (鋼コン) の 2 名による事前チェック。

(3)筆記試験の対策

- Apec-semi 合格答案実例集 (フリーダウンロードパス)
✓ これが私の勉強資料の根幹。提供してくれた受験生の方々には感謝です。
- Apec-semi 筆記試験セミナー動画+テキスト
✓ 筆記試験対策は前年 10 月から勉強に取り掛かっていたため、まずは前年度版 (R5 年度版) を購入、途中で最新版 (令和 6 年度版) も購入。
- 論文の添削依頼 (ココナラで論文添削の外注 (計 2 論文))
✓ 必須 I × 1 題と選択 III × 1 題を個別の個人に外注。添削料は 3,000 円/論文。
これ以外に他者への論文添削の依頼はしていない。
- 勉強資料①：国土交通白書 (令和 5 年度版)
勉強資料②：社会資本整備重点計画 (第 5 次、R3 年 5 月 28 日閣議決定)
勉強資料③：国土形成計画 (第 3 次 (全国計画)、R5 年 7 月 28 日閣議決定)
✓ 主に論述ネタのバックチェック用資料として使用。全体的に読みはしたが、
概念やトピックやキーワードをさらう程度で、隅々まで熟読はしていない。
「社会資本整備重点計画」は技術士試験の出題ジャンルに沿った形の内容で
整理されているので、取っ掛かりとしては一番読みやすい。

(4)口頭試験の対策

- **Apec-semi 口頭試験セミナー動画+テキスト**
 - ✓ 筆記試験の合格発表前の9月頃から準備を始めたが、最新版（R6 年度版）が未リリースだったため、前年度版（R5 年度版）を購入して対応。
- **sukiyaki 塾東京 TKP 市ヶ谷セミナー & 模擬試験講座（※模擬面接 1 回目）**
 - ✓ 筆記試験の合格から約 10 日後に実施。AM 座学+PM 模擬面接。模擬面接は受験生 5 人 1 組の班割りで他の受験生の模擬面接の様子も見学（※同じ鋼コン科目）。振り返り資料として評価シートも受領。
- **Apec-semi Web 模擬面接（※模擬面接 2 回目）**
 - ✓ 口頭試験 2 週間前に実施（Zoom 形式）。振り返り資料として評価シート、Zoom 録画が許可されていたためその動画ファイルも入手。
- **sukiyaki 塾東京 口頭模擬試験講座（※模擬面接 3 回目）**
 - ✓ 口頭試験 1 週間前に実施。受験生 4 人 1 組の班割りで他の受験生の模擬面接の様子も見学（※全員が鋼コン以外の科目）。評価シートはもらえなかった（同じ sukiyaki 塾東京でも評価シートがある時とない時があるらしい…）
- **購入書籍④：『令和 5 年度技術士第二次試験 実務経験証明書・口頭試問ペア実例集－13 部門・48 事例－』（㈱新技術開発センター 出版）**
 - ✓ 口頭試験 1 カ月前に購入。想定問答集のネタ作りの資料として役に立った。各受験生のリアル且つ多様なやり取り状況、少ないが不合格事例もあるので不合格者独特の雰囲気等も予習材料として活用。
※この出版元の民間塾は、一度でも書籍を購入するとその後の営業活動が凄まじいので、要注意
- **想定問答集**
 - ✓ 約 100 個を用意（厳密にいうと 94 個）。
- **業務詳細例の QCDES 整理表+技術的提案の○×△比較表**
 - ✓ 下表の要領で、業務詳細例の QCDES の各制約条件を整理して利害の相反を可視化。また技術的提案が中庸案である旨を示すため○×△の比較を整理。
これは模擬面接の中で講師から受けた指摘・提案によるもの。

	Q(品質)	C(費用)	D(工期)	E(環境)	S(安全)
利害関係者①	●●以上				●●以上
利害関係者②			●●ヵ月以内		
利害関係者③		●●億円以下		●●以下	
提案 1 【○○案】	◎	×～△	△	△	◎
提案 2 【××案】	×	◎	◎	◎	×
提案 3 【採用案】	○	○	○	○	○

(5) ツール類

- ノート PC+スマホ+Excel データ+クラウド (OneDrive 等)
 - ✓ 私の場合、勉強資料は全部デジタル環境で管理し、紙のノート類は未作成。
1つの Excel ファイルに全情報を集約して、クラウド共有して場所を問わず
閲覧・編集が可能な体制をとっていた。
- ボイスレコーダー
 - ✓ 筆記試験Ⅱ－1 対策用。整理したキーワード集と回答を自らの声で録音し、
スマホにその mp3 を取り込んで、通勤時に聞き流して刷り込んでいた。
- Zoom の録画機能の動画
 - ✓ 口頭試験対策用。Zoom 形式で模擬面接した際に面接風景を録画した動画。
自分の喋り方や表情を確認できる機会は少ないため良い復習素材となった。
スマホにその mp4 動画を取り込んで、通勤電車内で復習していた。
- 筆記試験での用具類
 - ✓ 実際の試験会場で使ったものは下表のとおり。これ以外にも様々な筆記具を
試したが、この体制に落ち着いた。

商品名等	用途	備考
コクヨ キャンパス ジュニアペンシル 0.9mm	タイトル行の書込み用	濃さ 2B
コクヨ キャンパス ジュニアペンシル 1.3mm	アンダーライン引き用	濃さ 2B
20cm 定規 (※メーカー不明、偶然文具屋で見つけた品)	アンダーライン引き用	20 cmあると一発で 線を引き切れる
ぺんてる オレンジ XPP503 0.3mm	余白へのメモ書き用 解答用紙の部門欄の書込み用	濃さ B
三菱鉛筆 クルトガ ユニアルファゲル搭載タイプ 0.5mm	本文の書込み用	濃さ 2B 予備含め 2 本用意
トンボ鉛筆 MONO 消しゴム (※特にこだわり無し)	消しゴム	2 個用意
腕時計 (※普段使いのもの)	筆記時間の計測管理用 (ストップウォッチがわり)	
小型のナースウォッチ	正式な試験時刻の管理用	
ハンディタオル	筆記中の手汗の対処	
塗り型の鎮痛剤 (アンメルツヨコヨコ)	首・肩・肘の痛みの緩和	昼休憩時に使用

7.取組履歴

9 月中～下旬（勉強開始）

- ・ 購入書籍①②③を読み、技術士二次試験の“勉強法の勉強”から開始。
- ・ 技術士会 HP から過去問を全て DL し、データ整理&傾向の分析。

10 月～12 月

- ・ Apec-semi 合格答案実例集（フリーダウンロードパス）購入。
- ・ A 判定論文集の分析作業（論文の分解＋共通項の論述ネタの抽出）を実施。
 - 問題Ⅰ ⇒出題テーマ 5 分類、計 73 論文を分析（R1～4 試験分）
 - 問題Ⅱ－2 ⇒出題テーマ 7 分類、計 91 論文を分析（H25～R4 試験分）
 - 問題Ⅲ ⇒出題テーマ 4 分類、計 40 論文を分析（R1～4 試験分）

1 月

- ・ Ⅱ－1 の出題履歴の整理（計 40 キーワード）＋各項目の回答穴埋め作業。
- ・ 出願書類（5 行経歴＋業務詳細例）の文案作成。

2 月

- ・ A 判定論文集の分析結果を、出題テーマごとに骨子状に再構築して平均化した「論文のネタ帳」の基本形が出来上がる。テーマは下表の内容で整理。

問題区分	出題テーマ
問題Ⅰ（必須科目） ※部門「建設」の場合	1. 防災・減災 2. インフラメンテナンス 3. DX 推進 4. 生産性向上 5. GX 推進
問題Ⅱ－2（選択科目） ※科目「鋼構造及びコンクリート」の場合	1. 耐震対策（耐震設計・耐震補強） 2. 劣化部の補修・補強 3. 工期短縮策 4. 厳しい現場制約の施工 5. 難しい点検・調査 6. 注意が必要なコンクリート打設 7. 施工不良の再発防止
問題Ⅲ（選択科目） ※科目「鋼構造及びコンクリート」の場合	1. インフラメンテナンス＋防災減災 2. 生産性向上 3. 担い手の確保 4. 環境負荷低減

3月

- ・ II - 1 の 40 キーワードを仕上げ、ボイレコ録音（以後、通勤時に音声刷込み）。
- ・ 上司+先輩に2度の添削を経て出願書類（5行経歴+業務詳細例）最終版完成。
- ・ 資料「国土形成計画」「社会資本重点整備計画」を改めて頭から読み直し。
- ・ 問題Ⅰ×1題+問題Ⅲ×1題の2題で練習論文を作成し、ココナラで添削を依頼
 - 問題Ⅰは環境テーマ+問題Ⅲは維持管理テーマ、依頼した先は別々の個人、特に問題Ⅲは受験科目である鋼コンを保有する既技術士の人に依頼

4月2日

- ・ 出願

4月

- ・ 3月に依頼していたココナラでの論文添削の結果を受領。
 - 評価はまずまず。用意している論述ネタ自体に問題はなく、表現力も基礎的な水準はクリアしているとの評価だった。あとは自らのブラッシュアップで対応が可能だと判断し、これ以上の論文添削の依頼は不要とした。
 - 『書き出しの頭に、“〇〇(設問内容)のためには…”と設問内容を関連付けた一文を挿入して、キチンと題意に回答してますよ感を表現すると良い』と、アドバイスを受ける。このテクニックはかなり有益だった。
- ・ R1~R4の過去問に対して、パソコン上で完成論文を作成。
 - 問題Ⅰ×8題、問題Ⅱ-1×13題、問題Ⅱ-2×8題、問題Ⅲ×6題を作成（問題Ⅲのうち2題は特殊なテーマで書けなかったため諦めた）

5月

- ・ GWは、やや中だるみをしていた。
- ・ 4月に作った完成論文を、“マイセルフ添削”でブラッシュアップ。
- ・ “ネタ帳”を再整理。インプット作業は5月下旬まで粘り、同年4月に報道発表されたばかりの「i-construction2.0」も、論文ネタとして急ぎょネタ帳に導入。
- ・ 作問者の気持ちを理解する練習として、問題Ⅰの作問+解答案×3題を作成。
 - 「気候変動を踏まえた水災害対策」「限られた人的資源を有効活用した生産性向上」「建設分野におけるGXの実現」で作問。結果は全く当たらず…

6月～7月中旬（筆記試験当日まで）

- ・ 6月頭から筆記試験の2日前まで、毎日論文の手書き練習。
 - R1～R5の5年分の問題Ⅰ・Ⅱ－1、Ⅱ－2、Ⅲを、時間計測しながら練習
- ・ 本番想定模擬試験を2回実施
 - R4年度過去問＋R5年度過去問で、実際の試験の時間割に従う形で練習
- ・ 試験1週間前は、体調管理に注力。採点委員の視点を理解することを目的に、『もし論文の採点マニュアルが存在するといるとしたら、こんな形だろうか？』などと、気晴らし程度に採点ループリックを自作していた。

7月15日

・ 筆記試験 本番

7月中旬～10月下旬（筆記試験終了～筆記試験の結果待ち）

- ・ 精神衛生的に不安定な日々を送る。
- ・ 試験ではそこそこ手応えはあったが、その他己評価が全く分からなかったため、民間の再現論文の採点サービスを依頼しようか血迷う（結局依頼はせず）
 - 筆記試験の終了直後では、民間塾や個人で『復元論文を有料で採点します』というサービスが散見されるようになるが、個人的に絶対オススメしない。理由は、その採点行為に一切の責任を負わない上に2万程度の料金を取り、突き詰めると受験生の不安を利用したビジネスでしかないため。
- ・ 作成した復元論文を chatGPT に投げて採点させる…という行為を、情性で毎日のように繰り返して時間を持て余す。
 - 当時、sukiyaki 塾の掲示板では採点のプロンプト案が話題で、その内容でⅠ・Ⅱ－1・Ⅱ－2・Ⅲで各100回以上は試行したが、ほぼ全部Aだった。個人的には、『結局 chatGPT は気休め程度の道具だったな』といった印象。
- ・ 9月中旬から、口頭試験対策を開始。過年度のセミナー動画の視聴＋想定問答集の作成に着手。筆記試験合格までに想定問答を約50個作成。
 - 本音は、筆記試験の結果待ち期間があまりにも長過ぎたので、その時間つぶしが主目的だった。
- ・ 今振り返ると、この宙ぶらりん状態だった3カ月半の期間が、今回の技術士試験の中で最もツライと感じた期間だったかも知れない。

10月下旬～12月中旬（筆記試験の合格発表～口頭試験まで）

- ・ 令和6年11月9日、口頭対策セミナー受講＋模擬面接（1回目）を実施
 - 筆記合格後すぐさま申込。AM セミナー＋PM 模擬面接。AM のセミナーは視聴済みの前年度のセミナー動画とほぼ同じ内容で、学びを得るというより復習に近い感覚だった。
 - PM の模擬面接は、25 分間で 28 の質疑が飛び交う熾烈で圧迫気味な内容で徹底的に絞り上げられた。だが、筆記合格前から準備を進めてはいたので「1 回目にしてはレベルが高い」とは評価された。
- ・ 模擬面接で受けた指摘や購入書籍④を用いて、想定問答集をブラッシュアップ。想定問答の個数は、11/9～12/2 の期間で約 50 個→約 80 個に増殖した。
 - 購入書籍④（新技術開発センター出版の口頭試験事例集）では、建設部門の受験生 17 人分の面接事例から、実際に質疑された内容を Excel に書き出し、質問の分類や傾向を分析した。今思えば、この作業がかなり有益だった。
- ・ 令和6年12月2日、模擬面接（2回目）を実施
 - この時点で「概ね問題なし」の評価を受け、ほぼ完成形の状態が作られた。Zoom の面接動画で自分の表情や喋りの癖を客観的に知れたのは良かった。
- ・ 令和6年12月8日、模擬面接（3回目）を実施
 - 一応「概ね問題なし」の評価。しかし質疑が変化球や深掘りの内容が多く、本番直前なのだから本番に即した質疑をして欲しかった…というのが本音。無駄に自信が目減りしたので、正直この模擬面接はやらない方がよかった。
- ・ 想定問答の数は模擬面接を重ねるごとに増え、最終的には約 100 個になった。
- ・ 通勤中や娘の寝かしつけ中など、事あるごとにブツブツ念仏のように想定問答を唱えて、喋りの練習をしていた。

12月15日

・ 口頭試験 本番

12月中旬～3月中旬（口頭試験終了～最終合格の結果待ち）

- ・ 口頭試験が終わった直後は達成感に浸り、年末年始もダラダラと過ごしていた。あまりにも暇だったので、2月下旬にITパスポートを受験（合格）した。
- ・ 合格発表までの最後の1週間になると、ドキドキゾワゾワした嫌な気分になり、本当に生きた心地がしなかった。毎日『早くラクにしてくれ…』と思っていた。

8.試験の経過と自己分析

(1)筆記試験

1) 必須科目 (AM)

内容	所要時間	備考
問題 I	120 分	・ 骨子作成 20 分 ・ 論文書込み 84 分 ・ 見直し 14 分 (制限時間が許す限り実施)

手応え：△ ※実際の成績：27.5 点/40 点 (得点率 69%)

I - 2 「防災+DX」テーマを選択。

予想外の出題で面を食らいました。出題の文面が長いうえ、日本語的に何を言っているのかぼんやりしていて、理解に苦しみました。この論文で私なりに注意した点は、主に2つありました。

1つ目は「投入できる人員や予算に限りがあることを前提に」という文面の解釈。これは人によって様々な解釈があると思いますが、私の解釈は、(1)の課題抽出で「人が足りない⇒人材の確保」「金が足りない⇒予算の確保」といったロジック展開は絶対に行わないこと、そして(2)の解決策提案では効率化・省力化に資する提案を行うこと、という意味だと捉えました。

2つ目は「対象のフェーズ」。つまりこの出題は、災害発生後のガチャガチャしたシーンだけを想定しているのか、或いは、災害発生前の平時からの取組も含むのか、という点。(1)設問文の『…進めて“いけるようにする”ため』と Can Do の表現になっていることが引っ掛かり、『…進めるため』と端的な表現に置き換えても文章は成立するのに、なぜだろう…?と気になりました。例えば、『近隣住民と円滑に調整するためには?』と問われたら、資料の提示方法やその時期等、調整行為そのものの真っ最中のシーンが想起されます。しかし『近隣住民と円滑に調整できるようにするためには?』と問われると印象が変わり、まずは地域の自治会長と関係性を築く等、住民調整より更に前の前捌きのシーンにも想像が及ぶ気がします。つまり本出題は、事前防災も議論に含むと解釈しました。また、問題文2段落目で、事前の防災・減災対策が『…に加え』と並列表現で定義付けされていたことも、理由のひとつです。

とはいえ、骨子作りから非常に悩み、試験直後の感想は『ヤバいかも…』でした。しかし、中身が多少薄くなっても、論文の“型”だけはシッカリ整えることには注意を払っていたので、そこが思いのほか点数を伸ばせた要因かと自己分析しています。

2) 選択科目 (PM)

取組順序	内容	所要時間	備考
①	問題Ⅲ	110 分	骨子作成 22 分 論文書込み 83 分 見直し 5 分
②	問題Ⅱ－1	25 分	論文書込み 25 分
－	(トイレ休憩)	約 2～3 分	Ⅱ－2 の骨子の思案含む
③	問題Ⅱ－2	63 分	骨子作成 13 分 論文書込み 50 分
－	(全体的な見直し)	約 10 分	残り時間を目いっぱい使用

手応え

Ⅱ－1 : ◎ } ※実際の成績：19.0 点/30 点 (得点率 63%)
Ⅱ－2 : △ }
Ⅲ : ◎ ※実際の成績：21.5 点/30 点 (得点率 72%)

Ⅱ－1 は「ASR の変状メカニズム・調査方法・補修方法 (Ⅱ－1－3)」を選択。

ラッキー問題でした。事前の分析通り、過去問で出題頻度が最も高いキーワードがドンピシャでした。(ちなみに選択外のⅡ－1－4 も想定通りだったので、選び放題だった)。骨子は作らず一発で本文を書き込みました。本当はもっと短時間で書けたと思いますが、敢えて慎重に書き込むように意識していました。

Ⅱ－2 は「既設構造物の不整合と性能確保 (Ⅱ－2－2)」を選択。

鋼コン科目では論文の現場条件を自分で設定する出題が多いのですが、論文冒頭の現場条件設定にかなり苦慮しました。しかし直前のⅡ－1 の手応えが良かったので、『最悪、Ⅱ－2 は 20 点中 10 点でもいいや』という気持ちで取り組みました。結果がⅡ－1＋Ⅱ－2 で 19.0 点ということは、逆算すると本当に約 10 点しか取れてなく、単独で見たら B 評価相当の低品質な出来だった可能性が高いと自己分析しています。

Ⅲは「CO2 削減の推進 (Ⅲ－3)」を選択。

これもラッキー問題でした。この出題は令和元年度過去問とほぼ同じで、準備した論述ネタを丸ごと放り込みました。想定通り過ぎてちょっと安堵してしまったので、気が緩まないよう敢えて慎重に書くという、逆の方向で気を払っていました。

(2)口頭試験

- ・日時 : 令和 6 年 12 月 15 日(日) 9:55~10:15
- ・場所 : TKP 品川カンファレンスセンター
(品川区高輪 3-25-23 京急第 2 ビル)
- ・面接時間 : 18 分
- ・手応え : ◎ ※実際の成績: 得点率 77~83%

20 分以内に収められたことと、メインどころの各コンピテンシーの質疑は準備通りに答え切れたことから、面接直後の感触は程よい達成感がありました。

面接官の雰囲気は、圧迫でもなければ和やかという雰囲気でもなく、終始プレーンな感じでした。個人的には、もっと分かりやすい反応が欲しかったところです。

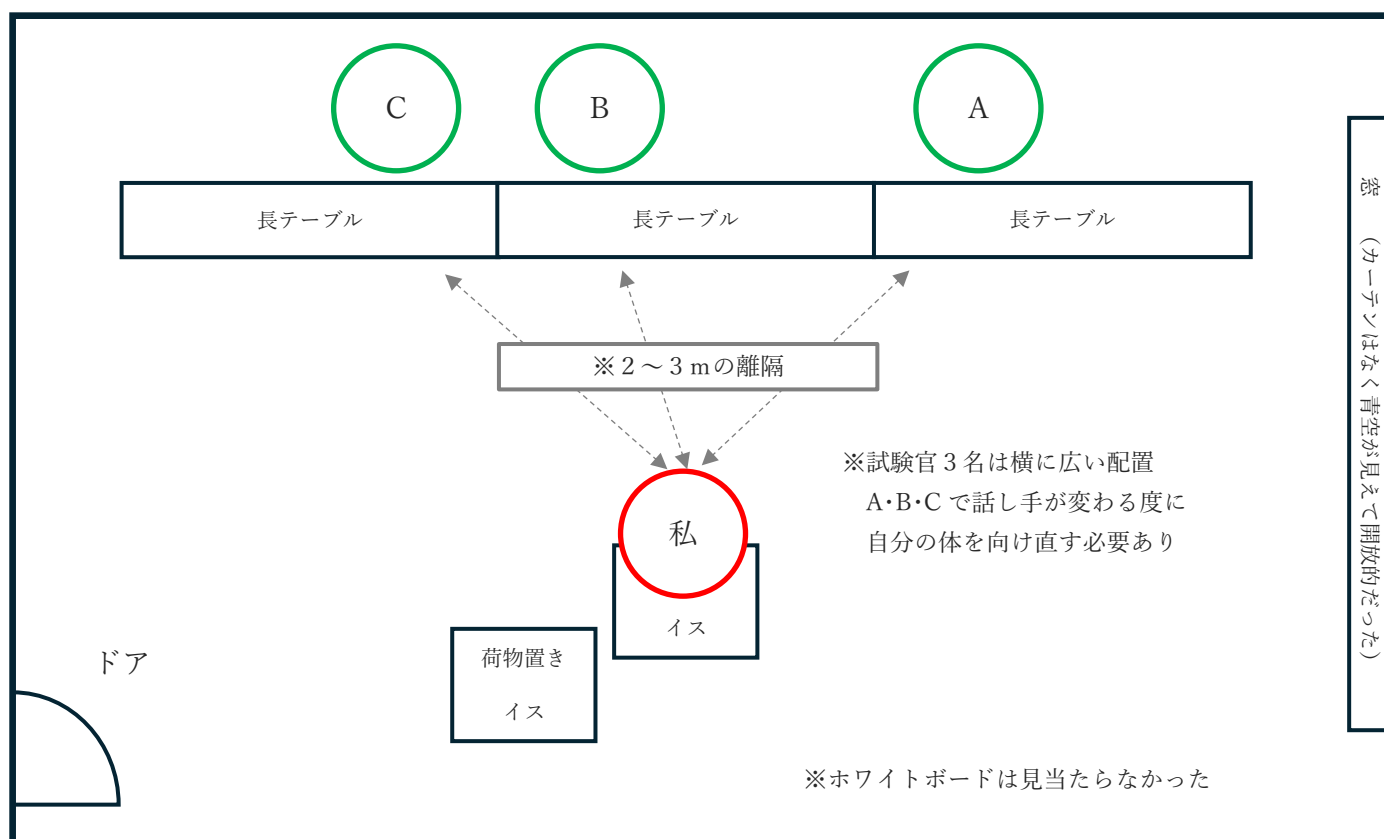
私が受けた面接ではついては、以下のような特徴がありました。

- ✓ 5 行経歴・業務詳細例・筆記試験の内容の質疑は一切なく、いきなりコンピテンシー関連の質疑から開始された。
- ✓ 室内に掛け時計やホワイトボードは見当たらなかった。経歴や業務詳細例の説明でホワイトボードを使わせる想定すら無さそうな状況だった。
- ✓ 面接室にはロックせず入室した。面接官の 1 名が室内から廊下に出てきて、手持ちの資料と私を見比べて本人確認されると、そのまま室内に促された。気持ちを切り切れないままヌルっと口頭試験が開始された。
- ✓ 私が受験した鋼構造及びコンクリートの口頭試験は、噂通り面接官は 3 名。横長に広がった配置で、質問者が変わるごとに体を向け直す必要があった。回答中、端の面接官がどんな反応をしていたのか視界に入りきらなかった。
- ✓ 各面接官が、『私からはマネジメントと評価についてお聞きします』などと宣言してから質問してくれたので、質問対象が明確で対応しやすかった。

口頭試験が終わって退室後は、そのまま真っ直ぐビルを出て隣の喫茶室ルノアールに駆け込み、面接室を出て 5 分後には、手持ち PC で口頭試験の復元を始めました。口頭試験の復元は筆記試験とは異なり記憶に頼るほかないため、直後でないと復元は困難であることを学びました。

参考までに、私が受験した面接室内の状況は、次ページのとおりでした。

★面接室の様子



試験官	C	B	A
コンピテンシー 試問分担	③ 技術者倫理	②-1 評価 ②-2 マネジメント	①-1 コミュニケーション ①-2 リーダーシップ ④ 継続研さん
見た目の印象 役割など	✓ 50代 ✓ 大柄で一見堅そうだったが、対応はニュートラルな感じ。 ✓ 自分を面接室内に誘導する案内役を担っていた。	✓ 60代 ✓ 見たところ一番ご年配の方。話し方がボソボソとしていて若干聞き取りづらかった。 ✓ 特に役割等は無かった様子。	✓ 50代 ✓ キッチリとした雰囲気の方。対応は柔和な感じ。 ✓ 3人の中でもメインなのか、進行役を担う感じだった。

9.あとがき

今回、私の受験体験記を sukiyaki 塾さんに寄稿した理由は、sukiyaiki 塾さん提供の勉強資料にお世話になったということもありますが、一番の理由は、これから新規で技術士となる「プロパー技術士」を目指す方々に幅広く貢献したかったからです。

プロパー技術士とは、これから新規に技術士になる人を指します。私の考えでは、技術士試験は“未技術士”を技術士にするための制度だと思うので、1人の既技術士が趣味で複数の部門・科目に合格し続けるより、1部門1科目の新規の合格者が大量に輩出される方が望ましい姿だと捉えています。技術士試験なんて所詮は手段なので、こんな茶番サッサと片付け、早く技術士になってイイを仕事すべきだと思います。

そして、実際にプロパー技術士を目指し始めた私自身の当時の心境を思い返して、『当時の自分だったら、こんな事前情報が欲しかったな』という観点に立ち、こんな長々と自らの体験を書き連ねました。なので、本稿はプロパー技術士を目指す方々を強く意識して記述しています。使える要素はどうぞご自由に使い倒していただきたいですし、使い物にならなければ丸めて捨てていただいても一向に構いません。

私の受験体験記や、筆記試験や口頭試験を復元した成果物は、ネットでアップして何かしらマネタイズすれば、小銭稼ぎが出来るかもしれません。そもそも公務員ゆえその手の副業は不可能なのですが、そうでなくとも、他人の試験で小銭を稼ぐような志の低い技術士になりたくないなので、無償で広域に発信できる本形式をとりました。

私自身、試験勉強中に一番思い悩んでいたことは、『自分が今やっている努力は、本当に合格に向かっているのだろうか…?』ということでした。論文+面接という、絶対的な解が存在しない試験の勉強は、どうしても暗中模索になり不安に陥ります。私のように独学で突き進んでいると、ついつい他者の情報を欲してしまいます。

そこで、Youtube・X・note・個人ブログ・民間塾サイト等々、“検索魔”となって、講師を名乗る人らが何か有益な情報を持ってないか、探し求めるようになりました。しかし、どれもあまり役には立ちませんでした。有益どころか、受験生の私が見ても考察が甘くて程度が低いと感じる情報源も存在します。例えば、私が実際に受験した「令和6年度 建設部門 必須科目Ⅰ－Ⅱ」でネット検索をかけてみると、設問文の解釈から既にバラバラで、品質が玉石混交である状況がよく分かると思います。

私は、技術士試験は『何を“正”とするか』が非常に大事な要素だと思っています。私の考えでは、温室環境で何時間もかけ出題を読み込んだ講師の後付けの講釈より、ヒリつく試験会場でA判定を勝ち取った数名分の復元論文の方が、より“正”に近くて勉強素材としても存在価値が高いと思っています。受験生に必要な情報を持つ者は、塾講師でも試験対策本でもなく、同じ立場の先達の受験生であると私は感じました。

話は変わって、私は運よく令和6年度試験を一発で合格することができましたが、実は筆記試験を終えた夏頃から、『技術士二次試験の受験は、合格でも不合格でも、今回で最後にしよう』と考えるようになりました。その理由は、試験の期間の長さと家族に対する思いです。

技術士二次試験は、4月の出願から3月の合格発表だけを見ても1年がかりです。そのうち半年近くは、結果待ちで宙ぶらりん状態を余儀なくされます。当事者として振り返ると、いつでも試験のことが脳裏にチラつき、小さい娘に100%全力の笑顔を向けられないのは、パパとして問題があると感じました。娘の寝かしつけをしながら筆記試験の論文骨子の思案や口頭試験の念仏トレーニングをしていた当時の状況は、今思うと末期症状だったな…と回顧しています。数年後には気が変わって総監部門の受験を考えるかも知れませんが、しばらくは技術士試験を控えて、継続研さんは別の方法を考えています。

私の様に、小さい子どもの育児を抱えながら試験に挑む方は、是非ともご家族との関係性には注力して欲しいと思います。私自身、妻から試験に対する理解を得られて合格を祝ってもらえたのは、勉強期間中であっても、家事・育児のタスクを一切減らさなかったことが大きかったと思います。仮に『大事な試験を受けているんだから、俺は家事育児しなくて当然だ！』的な態度だったら、C判定より遥かに厳しい評価が待っていたと思います。技術士に限らず資格の類は家族の理解が必要不可欠ですが、まずは自分自身にそれに値する信用があってこそ…であると痛感した次第です。

最後まで本稿をお読みいただき、誠にありがとうございました。